

# 校長室通信

令和6年12月12日号  
志免町立志免西小学校  
高良 祐治

日中の気温も10度台前半となり、寒い日が続いています。最近まで教室はクーラーが稼働し、熱中症指数に一喜一憂していたような気がするのですが、現在は暖房が教室を暖めています。

さて、先月から今月にかけて、5年生の宿泊学習や6年生の修学旅行が行われました。今回は、子どもたちの様子を観察しながら考えたことをお伝えします。

## 集団で行動するよさと課題

ご存じのように、本校は各学年180名前後の子どもたちが在籍しています。

5年生の宿泊学習初日の夜にキャンプファイヤーが行われましたが、中心の燃えさかる火を囲み、ずいぶん盛り上がっていました。6年生の修学旅行では、長崎の平和祈念像を前に、全員で黙祷を捧げ、千羽鶴を奉納しましたが、静寂の中整列する子どもたちの姿が立派でした。

このような“盛り上がり”や“静かな凜とした空気”は、これだけの人数が一度に揃い、同じ思いで行動することで創り出されている面もあると思います。

一方で、次のような課題も浮かび上がってきました。5年生の宿泊訓練では、野外炊飯でカレーライスを作る活動があったのですが、なかなか活動が始まりません。事前に学校の家庭科室でカレーライスの作り方は、練習しています。しかし、「はじめの一步」をなかなか踏み出せないし、「じゃあ私が…」という子どももなかなか現れません。

これは、食後の片付けの際にも見られました。野外炊飯ですから、かまどの清掃や鍋についたすす落としなど、手間暇かかる作業がたくさんあります。熱心に取り組んでいる子どももたくさんいたのですが、自分の役割やできることに積極的に取り組むというよりも、集団の中に埋もれ、そこにはいるけど何となく見ているだけの子どもたちがたくさんいました。

6年生の修学旅行では、初日に長崎市内のフィールドワークがあり、班ごとに自分たちで決めたルートや、地図を見ながら歩く活動がありました。ところが、これも自分で地図を確認せず、同じ班のみんなと一緒にいることに安心しているのか、ただついて行くだけの子どもが見られました。このため、ある班が道順を間違えたときは、その近くにいたすべての班がついて行ってしまい、最後は地元の方に正しい道を教

えてもらうこともありました。

本来は、自分で判断して行動できるようになることを期待しているのですが、集団の中にいることで、「誰かがするだろう」「誰かがするとおりにしておけば」という受動的な姿になってしまっているという課題も浮き彫りになりました。

## 判断力や行動力を身に付けるために

「自分で判断して行動する」ためには、次のような様々な力が必要です。

- 観察力…課題をとらえ、状況を把握する
- 思考力…解決方法を考える
- 判断力…自分がどうすることがベストか考える
- 決断力…行動に移す決心をする
- 行動力…粘り強く行動する
- 協調性…周りと思慮疎通を図る
- 規範意識…ルールやマナー、社会常識を考慮
- 省察力…行動を自己評価し、改善する

こう書くとずいぶん難しくハードルが高いような気がしますが、日々の学校生活や家庭生活で大人が意識して子どもたちと関わることで、十分に育てることはできると思います。

そのポイントは、「機会を与えているか」ということです。例えば学校の掃除時間では、教師が「はじめに机を運びなさい。」「ほうきでゴミを取り除きなさい。」「床を雑巾で磨きなさい。」…と指示を出して全体を動かした方が、早く掃除は終わるし、きれいになると思います。しかし、そこをぐっと我慢して、「この教室をもっときれいにするために、あなたはどこをどんなふう掃除しますか？」と問いかけ、考えさせ、実行させてみる経験をさせることが必要です。

学校でもこのような「機会を与える」ことを意識した指導を重ねていきますが、ご家庭でも生活の様々な場面で意識していただけるとよいかと思います。